

# 伊藤忠商事の企業文化を体験して

北京第二外国語学院学生代表

見学日時：2016年5月27日（金） 16:30-19:30

見学場所：伊藤忠商事株式会社

## 見学概要

伊藤忠商事株式会社は日本でも有名な大企業であり、今回の見学では視野を大きく広げることができた。

伊藤忠商事の見学では、まず初めにスタッフから会社の概況について詳しい紹介があった。その中で、伊藤忠商事の昨年度の純利益が日本の五大商社のトップであると知り、私たちはさらに強い気持ちでこの素晴らしい企業を知ろうと努めた。スタッフの解説を通じて、私たちは繊維、機械、金属、エネルギー・化学品、食料、住生活、情報・金融など同社の営業範囲の広さを知り、さらにそれぞれの分野において自身のブランドを起ち上げているということにとっても感服させられた。また同時に、1972年に大型総合商社として初めて中日貿易再開の許可を受けて以降、これまで一貫して中国の歴史・文化、貿易習慣などに精通した中国語人材を育て、中国国内の各分野のトップ企業と提携パートナーシップを結び、中国との共同発展を実現してきたといった、伊藤忠商事と中国とのゆかりについても私たちは知ることができた。もちろん、伊藤忠商事がこれまで直面した様々な出来事に対して、同社の、またスタッフそして経営陣の頑張りにより今日の発展を収めることができたということ、紹介ビデオの観賞を通じて感じ、私たちは感動を覚えずにはいられなかった。

貴重な資料を見終え、またスタッフの解説を聞き終えた私たちは、興奮冷めやらぬまま同社が私たちのため準備してくれた晩餐会へ参加した。席上では同社の経営陣そして私たちの団長からのあいさつがあり、私たち新世代の青年にとっては収穫の多いものであった。また伊藤忠商事のスタッフとの交流では、彼らの私たちへの友好的な姿勢が感じられ、彼らのこれまでの仕事における様々な経験談を紹介してもらうなど、非常にためになった。それと同時に彼らからは、仕事に対するひたむきさとこだわりといった私たちが学ぶべきものが感じられた。



## 知っていますか？

問：「朝型勤務制度」を知っていますか。出勤後には残業をすることもありますが、「朝型勤務制度」というのを聞いたことはありますか。

答：伊藤忠商事が2014年4月から正式に導入を始めた「朝型勤務制度」は、意識改革の一環である。夜の残業を朝にまわすのは、夜間の残業に比べて早朝の勤務は頭がより冴えるためであり、こうした改革の最大の目的としては、業務効率を高める以外に、また従業員のプライベート生活を豊かにすることにある。深夜まで残業することが常態化していた総合商社がこうした制度を実施することに、当初疑問を持つ人もいたが、現在では当然の制度として全社において実施されている。顧客から好評を博し、さらに業務効率を向上するという当初の目標効果を実現すると同時に、こうした進んだ取り組みは産業界のみならず、政府や行政機関においても広く注目を集めており、次第に社会における新たな動きとなっている。

問：伊藤忠商事のロゴの寓意は？

答：色合いは地球の青を想像させ、構図は地平線を思わせるもので、グローバル化の現在における企業発展の傾向を表し、発展の勢いが次第に増していくという着実に落ち着いた印象をあたえるものである。

## 感想

伊藤忠商事についての最初の印象は少しも手を抜かないということであった。こうした印象は自然に感じられるもので、触れることこそできないが、終始私に、伊藤忠のスタッフの完璧を求める姿勢を感じさせた。そして中国語の堪能な女性スタッフの解説とともに、伊藤忠商事の物語が徐々に展開された。

1858年に大きな使命を背負った商人たちがいた。

その後158年間、彼らの足跡は地球上のあらゆる場所に広がり、国を越えて暮らしと関わり、新たな生活文化を創り、ありとあらゆるものを力強く商ってきた。

「その商いは、未来を祝福しているのか？」彼らは常に自身に問いかけていた。そして探求を通じて、彼らはついに「豊かさを担う責任」という商いの本当の意味を悟った。これも彼らの存在意義を広く社会に伝えている。

日本において彼らは日頃から、中国でいうところの「梁山好漢」と同じ「野武士集団」と呼ばれている。彼らは豊かな個性を持った人の集まりで、自由闊達な風土を持った組織であり、「個の力」が非常に強い集団である。そしてスタッフ

一人ひとりがビジネスの現場で、マーケットが求めている商品やサービスを提供することで広く社会に豊かさを提供し続け、「商うこと」の先に広がる豊かさを提供していくことが、社会から認められ存続していくためには不可欠である。これらはまさに創業者である伊藤忠兵衛をはじめとする近江商人の経営哲学である「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」と一致する持続的発展の道筋であり、伊藤忠商事が果たすべき「使命」である。

伊藤忠商事の物語を振り返り、私にとって最も印象的だったのは、彼らの「商人魂」である。商人魂とは一体何か。その精神を形作っているのは、恐らく伊藤忠商事の先見性、誠実、多様性、情熱そしてチャレンジ精神であろう。そしてこれはまさしく私たち中国企業に不足しているものではないだろうか。グローバル化の今日において長きに渡り発展していくのであれば、スローガンや理念以外に、着実な実践が必要であろう。

